

La Informilo de NEC

センター通信

第264号

2011年6月12日発行

名古屋エスペラントセンター Nagoja Esperanto-Centro
461-0004名古屋市東区葵一丁目26-10ユニール新栄301号
郵便振替 00840-8-40765 [名古屋エスペラントセンター]
<http://homepage2.nifty.com/nagoja-esperanto/>



ザメンホフのモザイクの下で、Udine にて

名古屋エスペラントセンター2011年総会の記録	2
ウーディネ訪問記	片山浩子 5
日韓共同開催エスペラント大会にむけて 聞いてみよう直前講座	8
東海大会、恵那市で開催	9

ウーディネ訪問記

片山浩子

NEC会員片山正昭の妻、片山浩子と申します。この4月上旬に、イタリアのウーディネ（Udine：エスペラントではウディーノ Udino）を夫と訪問し、現地のエスペランティストに会うことができました。その時の様子をこの場を借りてご紹介したいと思います。

ウーディネは、イタリア北東部、ユーゴスラビア・オーストリアと国境を接するフリウーリ＝ヴェネツィア・ジュリア州 ウーディネ県を中心の都市です。人口約10万人の静かな大学街です。夫が大学で行われる国際会議に出席するので、自費でついていきました。会議中私は暇なので、現地にエスペランティストがいたら会いたいと思い、出発前にGoogleで調べました。そして1923年からの歴史があり、現在も講習を行っている “Nova Espero Friuli” というグループがあることを知りました。

先方の代表者にe-メールを送って出発。ホテルへ到着した私たちを待っていたのは「明日・明後日ご一緒させていただきます」というメッセージ！翌朝、三人の素敵な男性 S-ro Martinez, S-ro Liva, S-ro Rovere が私を迎えに来てくださいました。

「ウーディネにはエスペラントに関係のある場所がいくつかあります。そこへご案内しましょう」ということで、最初に

向かったのは、街の中心の小高い丘の上にあるお城です。現在は美術館になっています。城を取り囲む壁の外側に沿って歩いていくと、なんとそこには金色に輝くザメンホフの顔のモザイクが。このモザイクは、ウーディネ出身のエスペランティスト、アキレ・テルリーニ（Achille Tellini, 1866-1938）が1935年に作らせたものだそうです。彼の住んでいた家の中庭にあって半ば忘れられていましたが、ウーディネのグループを中心とする多くのエスペランティストが請願の手紙を書いたことにより、1965年に現在の場所に移され、誰でも見るできるようになったということです。



左から

S-ro Martinez, S-ro Liva, S-ro Rovere

続いて「エスペラント公園 (Giardino dell' Esperanto)」、「テルリーニ通り (Via Achille Tellini)」と名付けられた場所にも行きました。これらは、エスペラント発表100周年の1987年に、ウーディネのグループが、街にエスペラントにちなんだ名前をつけてほしいと役所に申請し、1996年に認定されたものだそうです。



ザメンホフのモザイクのある大理石の記念碑

その後は車で近郊のチヴィダーレ (Cividale) へ。この街は紀元前50年にシーザーによって作られ、古くは

「フォーラム・ユーリイ (Forum Julii: ユリウスの広場)」と呼ばれていました。現在の地方名「フリウーリ (Friuli)」はそこからきています。6世紀にイタリアに侵入してきたロンバルド族 (Longobardo) が最初に定住した場所でもあります。彼らの遺した古い寺院などを見学し、ここはいろいろな文化の交差点なのだな…と実感しました。

帰り際に S-ro Rovere から「お友達やお知り合いの方に差し上げてください」と、自主制作のCDを数枚いただきました。イタリア語や英語のポピュラーソングを彼がエスペラントに訳し、歌ったものです。「オーソレミオ」やビートルズやステイービー・ワンダーの歌もあり、後半はカラオケ用に伴奏のみが収録されています。CDはエスペラントの普及活動のために、その売り上げは目の見えない人やアフリカの貧しい子どもたちへの支援活動に使われているということでした。(CDは何枚かNECの事務所にお預けしておきますので、ご希望の方はお持ち帰りくださいますように。)



Manüel の歌う “duonvoĉe ... tutkore”

翌朝、エスペラントの講習会場を見に行きました。ウーディネ駅の線路脇に “Dopolavoro Ferroviario (Fervoista Libertempa Organizo)” という建物があり、その一室を他の団体と共有で使っています。残念ながら新規講習会の開講は数日後だということで、誰もいない

部屋をのぞいただけでしたが、保管されているアルバムや日誌を見せていただくことができました。ここに来た日本人は私が3人目のようで、1人目は現地のエスペ란ティストと結婚した女性（お名前はわかりませんでした）、2人目は京都府亀岡市の伊藤栄蔵さん（達筆でメッセージが残されていました）。「講習会には若い人も来ますか？」と尋ねたところ、「近頃の若者は遊びに忙しいので来ない。働いている世代か、我々のような年金生活者が中心だ」ということでした。



ホテルの前で

その後も世界遺産のあるアクイレイア (Aquileia) に連れて行っていただいたりと、至れり尽くせりでした。次の朝、もう一度ホテルにお別れを言いに来てくださったので、会議の終わった夫もご挨拶をすることができました。

最後に、この地方の言葉「フリウーリ語 (Friulano)」に関するエピソードをご紹介します。フリウーリ語はイタリア語の方言ではなく別の言語で、約80万人の話者があり、

ウーディネの街の看板はイタリア語とフリウーリ語の両方で表示されています。今回案内してくださったS-ro Liva はウーディネ生まれで、フリウーリ語を話しますが、S-ro Martinez はシチリア島出身で、フリウーリ語を解しません。お互いの共通語はイタリア語とエスペラントだと言っていました。

ウーディネで最後に立ち寄った教会では、フリウーリ語で聖書を朗読していました。受付の人によると、これは千人のボランティアが昼夜連続1週間かけて、聖書を最初から最後までフリウーリ語で朗読するマラソンイベントだということでした。聖書がフリウーリ語に訳されるのはこれが初めてで、自分たちの言語を守っていくための活動だと話していました。こんなところでもヨーロッパの言語事情を目の当たりにして、感慨深いものがありました。

帰国後、娘（大学生）に土産話をしたら、「エスペラントってそんなに使えるものなの？ それなら私も勉強しようかな～」と言うのです。これまで両親が家の中でエスペラントで話していても、習いたいと言ったことはなかったのですが… こんなうれしいおまけまでついてきました。 ★

日韓共同開催エスペラント大会にむけて
聞いてみよう直前講座

韓国セマウル運動研修院で開催されるKomuna Esperanto-Kongreso de Japanio kaj Koreio (今年10月7日～10月9日)には名古屋からも参加申し込みが増えています。これにちなんで名古屋エスペラントセンターでは大会参加へ向けて取り組みを始めました。

エスペランの広報活動として一般公開講演をこの夏、名古屋出身の、広島大学で「朝鮮語」を教えている山田寛人さんによる2回の連続講座を開催いたします。

知っているようで知らない韓国について、大会参加者のみならず韓国に関心のある方にとっても、意外と知らなかった日本と異なる韓国の生活様式など面白い内容が期待できそうです。「聞いてみよう直前講座」へお出かけください。

名古屋エスペラントセンター委員長・山口真一

日時： 7月19日18時半より 「エスペラント、日本語、韓国語の共通点と相違点」
8月10日18時半より 「日本語を学ぶ韓国人と、韓国語を学ぶ日本人」

講師： 山田 寛人

場所： 名古屋エスペラントセンター 東区葵一丁目26-10 ユニブル新栄 301号
地下鉄「新栄町」2番出口を東へ徒歩3分。1階店舗「Bar Pieno!」が目印

会費： 1,000円 (節電のため扇風機を使います。講座終了後場所を変え、食事の予定。別料金)

連絡先：企画委員・猪飼吉計 090 9191 3339 ikai_yosikazu@ra2.so-net.ne.jp

講師：山田 寛人 (広島大学で朝鮮語を教える<2003年4月～現在>)

講座内容：

- ・朝鮮語とエスペラントの特徴を比較する
- ・朝鮮語に存在しないエスペラントの発音：「C」、「F」、「V」、「Z」
- ・朝鮮語で区別が難しいエスペラントの発音：「k/g」「ç/ĝ(j)」「p/b」「t/d」「r/l」
- ・朝鮮語とエスペラントに共通した文法(日本語にはない) Mi (ankoraŭ) ne legis la libron.
- ・日本語と朝鮮語の類似点 語順、漢字語(中国語よりも共通率が高い)

関連著作物：

- ・「植民地朝鮮における近代化と日本語教育」(日韓歴史共同研究委員会『第2期日韓歴史共同研究報告書(第3分科会篇)』2010年3月)
- ・「東海(トンヘ)」は「日本海」か?—朝鮮語と日本語の視点の差異(山本真弓編『文化と政治の翻訳学』明石書店、2010年5月)
- ・「支配のための朝鮮語学習」を考える(上田崇仁他編『交渉する東アジア』風響社2010年6月)

エスペラント歴：

- 1986年 第71回 世界エスペラント大会(中国、北京)参加
- 1997年 第18回 日韓中青年共同セミナー(滋賀県和辻浜青年会館)参加
- 2007年 第92回 世界エスペラント大会(日本、横浜)参加
- 2008年 第57回 東海エスペラント大会(愛知県、犬山市)一般公開講演「国際言語年」の話

編集後記 突然の原稿提供が片山さんからあり編集者として大喜び。維持員会員のみなさん、文章や写真で「センター通信」に参加してください。 山田 義 yamadapiano@mac.com

東海大会、恵那市で開催

報告：山田義

2011年東海エスペラント大会は5月28～29日、岐阜県恵那市の郊外の田園にある「茅かやの宿とみだ」で開かれた。ここは、もと茅葺きの民家に宿泊設備を整えた施設。会場の確保や参加申し込み受付など大会の運営を恵那の斎木彰、昌代夫妻が中心になって進めた。大会の開催回数やエスペラントによる大会名の表記はなされなかったが、いつもの大会横断幕が届いたので張り出した。La 60a Esperanto-Kongreso de Tokaj と写真には写った。ちなみに、参加費1,000円、宿泊費2,000円、寝具1,000円、夕食1,200円、朝食400円であり、会計は黒柳文子さんが担当。

Akira の司会で開会。山田義によりエスペラントの歌集が配られ歌の練習の後、地元のオカリナとフルートのグループが演奏を披露してくれた。斉木昌代さんもこのメンバーとしてオカリナを奏した。今年のソウルでの共催大会で歌う "Saluton!" も練習し、電子鍵盤による伴奏付きで指揮者が立ちオカリナやフルートの演奏あり、参加者全員で楽器とこの歌を演奏した。音楽グループも一緒に座っていただき記念写真を撮った。会場は、古い民家を移設したもので襖を取り払った畳敷きの4部屋の中心に黒光りの太い柱が写真全体の中央に立ってしまう。デジタル写真をパソコン上で合成することにして三脚をずらして2枚のシャッターを切った。大会のために喜んで演奏してくれた音楽グループに藤本日出子さんがねぎらいのことばをかけていた。夕方まで、いま活躍中の東海のグループや個人が自己紹介し参加者22名のほとんどが前に立った。犬山エス会から後藤好美さんと西尾晴孝さんが、豊田エス会から高橋千恵子さんと熊代幸子さん、そして Ĉambro Ĉarma のメンバーがそれぞれ寸劇を披露した。その間、本物の抹茶も振る舞われた。温泉から帰ると雨の夜は、いろいろ端で火を焚いて遅くまで語り合った。全員が畳に布団を敷く広さが足らず、事務室や台所で持ってきた寝袋を利用した人もいた。中村進さんの盲導犬ヴァージルは戸の裏の板縁にシートを敷いて寝ていた。

翌日も雨。早朝散歩は傘をさして「農村景観日本一」の散歩道を展望台まで登った者もいた。雨のために出かける人は少なかったが、田植えの始まった田んぼ、曲がりくねった田んぼ道、遠くの山々に煙る朝の霧は目に美しい。午前中は小講演が続いた。黒柳吉隆さんがコントラクトブリッジのカードの遊び方を話し関心を示す人たちが多かった。山田義さんがエスペラントの字上符からキーボードのことを語り印刷されたテキストを配った。山本修さんが浜松の禅寺での禅の体験を座布団に正座のまま話すと日本語でも質問が続出した。中山欽司さんはザメンホフの生涯に関するエピソードを語り、質問に答えた人には用意して来た鉛筆やカードが渡された。最後に、斎木彰さんがお得意のオリガミについて電子映像を見せながら語るとその仕事ぶりに感嘆の声が上がった。全員がエスペラントで語ったが肩のこらない講演ばかりだった。関西から初参加した宇治城陽エス会の西千鶴子さんと清水博子さんは準備して来たカードを使ってエスペラントの短文を作るゲームを披露してくれた。しめくくりに来年の東海大会の開催について相談があり、中山さんが豊橋で引き受けることになった。関西の二人はこのアットホームな大会を大いに楽しんだとい

うことで、来年は人を誘って参加したいと言っていた。午後の岩村城下の町の散策は雨のため取りやめになった。☆



西千鶴子、勝はるみ、中山 欽司、清水博子、鈴木、前田愛子、中村進、西尾晴孝、山本修、黒柳吉隆、山田義前田可一、斎木彰、山田富久子、斉木昌代、山田シマ子、高橋千恵子、今井、吉村アサ枝、黒柳文子、藤本日出子
前列：中谷、安田、今枝、林、鈴木善彦、後藤好美、熊代幸子



↖ Afíšo de la koncerto
◀ Nokta kunsido ĉirkaŭ hejtilo
Trupo Ĉambro Ĉarma ↗
La kammpara domo ▶

